

# 第19回 白川・緑川学識者懇談会

## みどりかわ 緑川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## 流域の概要

- ・**緑川**は、その源を熊本県上益城郡山都町の三方山(標高1,578m)に発し、御船川等の支川を合わせて熊本平野を貫流し、下流部において**加勢川、浜戸川等を合わせ有明海に注ぐ一級河川**である。
- ・緑川流域は、熊本県のほぼ中央に位置し、熊本市等の主要都市を有している。沿川には九州縦貫自動車道をはじめ、国道3号、JR鹿児島本線等の基幹交通施設に加え九州新幹線も開通する等、交通の要衝として**中九州における社会・経済・文化の基盤**をなしている。
- ・緑川流域は、九州中央山地国立公園や矢部周辺県立自然公園等の自然環境に恵まれるとともに、藩政時代からの歴史的な治水施設や国指定重要文化財である通潤橋をはじめとする石橋が数多く存在するなど、**豊かな自然環境と歴史・文化を有する流域**である。

## 緑川流域概要図



## 緑川の概要

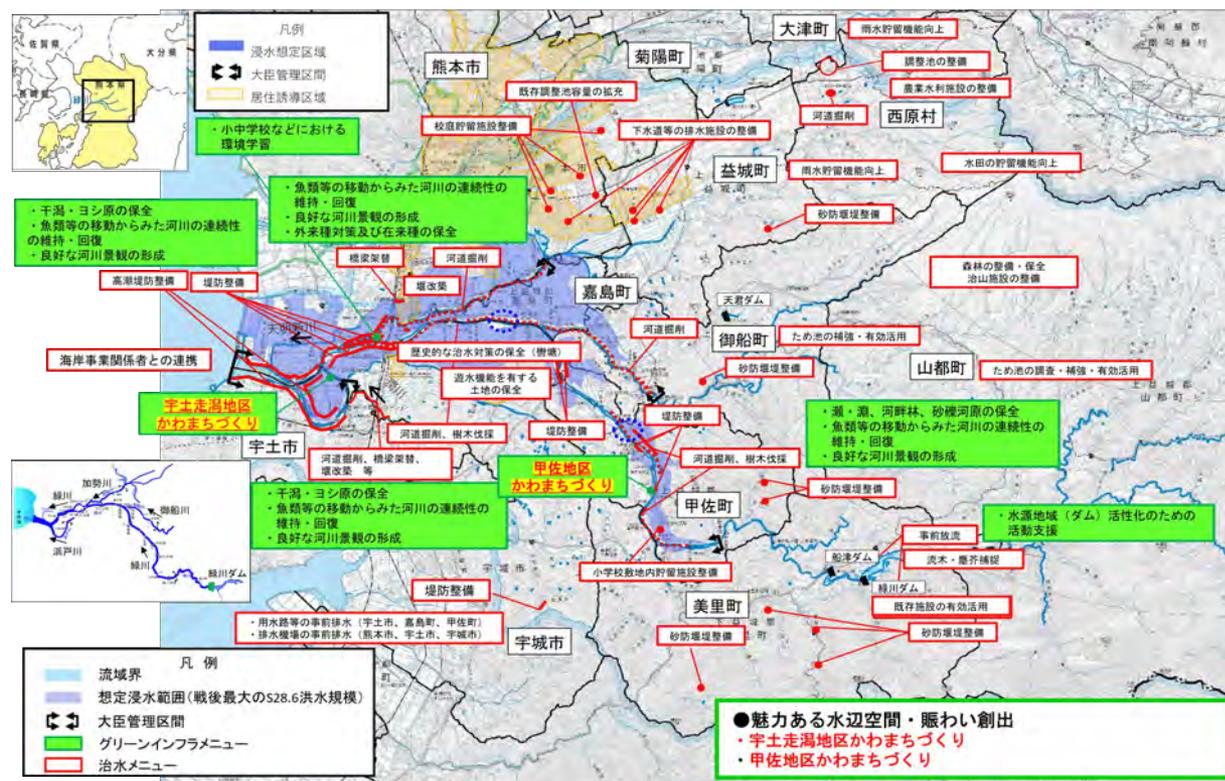
- ・流域面積 : 1,100km<sup>2</sup> (九州第7位)
- ・幹川流路延長 : 76.0km (九州第7位)
- ・大臣管理区間 : 55.2km (ダム区間を除く)
- ・流域内市町村 : 熊本市・宇土市・宇城市・八代市・嘉島町・菊陽町・益城町・御船町・甲佐町・美里町・大津町・山都町・西原村
- ・流域内人口 : 約54万人  
(平成27年国勢調査)

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (1)地域開発の状況

### 【白川・緑川水系流域治水プロジェクト】

- ・白川・緑川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進するため、白川・緑川水系流域治水協議会を令和2年9月2日に設置し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速させるため、『流域治水プロジェクト』をとりまとめている。
- ・魅力ある水辺空間・賑わい創出のため、国土交通省・甲佐町・宇土市が中心となって甲佐地区かわまちづくり、宇土走潟地区かわまちづくりを進めている。



流域治水プロジェクト(緑川流域)

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (2)地域の協力体制/宇土走潟地区

- ・令和2年6月より地元住民代表や学校関係者、宇土市、国土交通省により構成された「宇土走潟地区かわまちづくり協議会」「宇土走潟地区かわまちづくり実行委員会」を開催し、整備の方向性や利活用・維持管理について意見交換を行い、**令和3年8月には「宇土走潟地区かわまちづくり計画」が登録された。**
- ・かわまちづくり計画登録後においても、協議会等を開催し、整備内容、利活用、維持管理に関する協議を行っており、他事例の視察や社会実験を行いながら、**地域主体の具体検討を進めている。**
- ・整備対象箇所は宇土市が占用し、**地域住民等を主体としたアーチェリーやグラウンドゴルフ等のスポーツ・イベント広場として利用されており、清掃活動も実施されている。**



かわまちづくり協議会



かわまちづくり実行委員会



実行委員による他事例視察  
(左:R5.松浦川駒鳴地区、右:R6.8熊本県民運動公園)



社会実験(炊き出し体験、現地視察)



グラウンドゴルフによる利用状況



地域住民による清掃活動

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (2)地域の協力体制/甲佐地区

- ・平成25年度より「甲佐地区かわまちづくり協議会」を開催し、平成26年度には、かわまちづくり計画の実践組織である「甲佐地区かわまちづくり実行委員会」を立ち上げ、緑川を軸とした地域の活性化、様々な世代が集う水辺拠点として地域交流の促進を図るとともに、河川空間利用者の安全性の向上、河川巡視・河川管理の円滑化を図ることを目的に議論を進めてきた。
- ・緑川の風景を活かし、**地域を超えた交流ができるイベント広場、様々な世代が集う賑わいのある水辺拠点の創出を目指し、平成27年3月に「甲佐地区かわまちづくり計画」が登録され、**治水上及び河川利用上安全・安心に係る河川管理施設の整備を行った。
- ・整備対象箇所は、甲佐町内外から多くの方に**イベント、スポーツ大会(サッカー、野球、アクアスロン)**等で利用されている。大会前には主催者や選手が、ゴミ拾いや草刈りをするなど、維持管理の協力体制も構築されている。



かわまちづくり協議会



かわまちづくり実行委員会



イベント(スポーツフェスタ)



スポーツ大会(野球)



スポーツ大会(アクアスロン)



大会主催者と選手による維持管理

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (3)関連事業との整合性/宇土走潟地区

【第6次宇土市総合計画(前期・後期基本計画)(H31.4/R5.3)】

- ・国が管理する緑川・浜戸川では、大雨や台風時に満潮が重なる際には高潮被害のおそれがあるため、治水対策は市民の生命・財産を守るために必要不可欠な事業であると示している。
- ・走潟地区では、美しい田園景観のもと、**地域の中で子どもたちがふれあい、地域住民が子どもたちを守り、育てる地区の良さをこれからも充実し、子どもたちが楽しく住み続けたいと思うまちを目指すこと**としている。

【宇土都市計画区域マスタープラン(H24.4)】

- ・優れた自然環境・景観を後世に引き継ぐため、公園・広場の整備と併せて緑地・景観の保全を推進し、潤いのある都市空間の創出を図ることとしている。また、文化財や自然景観、農村景観などの優れた景観の保全に努めると同時に、**河川などの親水空間の整備など地域資源の有効活用により潤いあふれる美しい景観の保全に努めること**としている。
- ・区域の主要な河川である浜戸川等の整備を図り、改修事業等の治水対策を進めることで水害に対する安全性を確保するとともに、生態系に配慮した水辺空間の整備、**レクリエーション機能の付加及び景観整備等**を図り人々が集い水と交流することができ、**地域に潤いを与える美しい空間の形成に努めること**としている。



### 東部エリア(宇土・花園・轟・走潟)

目指す“輝くふるさと”づくり

#### 「農村と都市が共生する住み良さ充実のまち」

- 熊本市周辺のベッドタウンとして、生活環境の利便性の向上に努め、住みたいまちを目指します。
- 地域住民の交流・連携の場を広げ、ふれあい、支え合いのあるまちを目指します。
- 自然や歴史文化などの資源を生かし、にぎわい、活気生まれるまちを目指します。
- 農産物の高付加価値化などにより豊かな農村を支える元気な農業が育つまちを目指します。

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (3)関連事業との整合性/甲佐地区

### 【第7次甲佐町総合計画(R3.3)】

- ・住民の憩いの場、交流の場を確保するため、恵まれた自然環境を生かした魅力ある公園・緑地を整備することとしている。

### 【甲佐町国土利用計画(R4.12)】

- ・熊本甲佐総合運動公園「緑川リバーサイドパーク」を、多様な世代の交流の場として、活用と広域的利用を促進することとしている。
- ・一級河川である緑川沿いを、近場で親しめる水辺空間として整備を図ることとしている。
- ・公園・緑地については、住民だれもが利用できる町の憩いの空間づくりに努めることとしている。

### 【緑川リバーサイドパークin甲佐(くまもと101景づくり推進事業(H13.3))】

- ・清流緑川を軸として、自然と人、町民と来訪者との交流を育むこととしている。

### 【熊本河川国道事務所 事業概要2024】

- ・船津地区河川防災ステーションは、緑川上流部における災害時の迅速かつ円滑な復旧活動を行うため、復旧活動に必要な水防資材の備蓄、ヘリポート等のほか、拠点となる水防センターを設置する計画としている。



熊本甲佐総合運動公園「緑川リバーサイドパーク」



安津橋健康広場景観整備プロジェクト緑川リバーサイドパークin甲佐  
(くまもと101景づくり推進事業(H13.3))

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (4) 河川環境等を取りまく状況

- ・上流部は、流水区間であり、瀬・淵が織りなす自然な景観が広がっている。
- ・中流部は、堰による湛水区間であり、緑豊かでゆったりとした景観が広がっている。
- ・下流部は、感潮区間であり、山並みまで見渡せる広大な景観が広がっている。
- ・本川中下流部では、水害の歴史を乗り越え地域の利活用の場となっている**御船川**、藩政時代の河港としての面影を残しつつ貴重な動植物が生息・生育する**加勢川**、河口部特有の干潟環境を有する**浜戸川**等、歴史・環境・景観・利活用等それぞれ特性の異なる**支川が合流して流域を形成**している。



上流部



瀬・淵



中流部



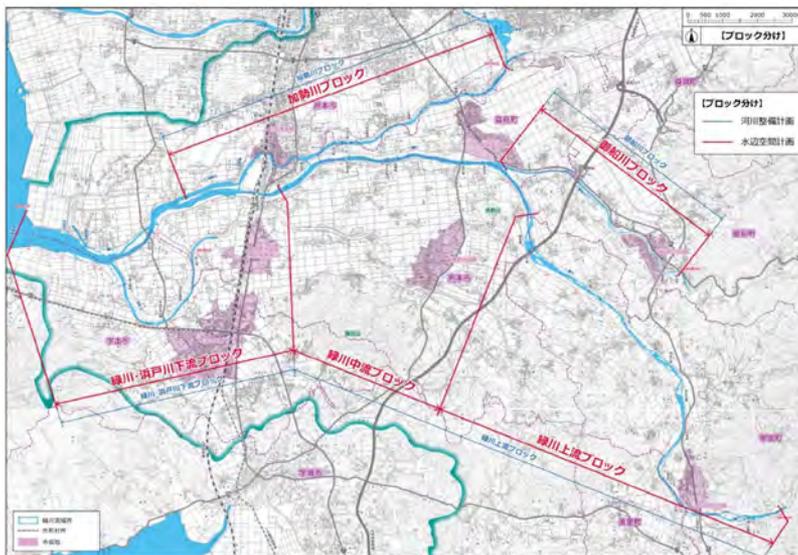
堰による湛水区間



下流部



感潮区間



御船川



加勢川



浜戸川

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (5) 河川の利用状況

- ・緑川では四季を通して散策や釣りなどの日常的な利用をはじめ、河川敷では**夏祭り**や**花火大会**、御船川・加勢川では**精霊流し**など、毎年恒例の行事が継続的に行われており、地域の交流拠点となっている。
- ・歴史的、文化的な施設である**川尻の船着場**や**中無田閘門**は、川尻の**昔ながらの町並み**とあわせて観光の名所として様々なイベントが開催され、熊本市内外から人々が訪れている。
- ・**ピクニックや水遊びが楽しめる「津志田河川自然公園」**や、**スポーツの場として利用される「熊本甲佐総合運動公園」**等のスポットがたくさんあり、緑川流域内外の多くの人で賑わっている。
- ・緑川旧河道の河川敷にある**浜戸川運動広場**には、**アーチェリー場、グランドゴルフ等のスポーツ・イベント広場**として利用されている。
- ・緑川流域では日頃より水辺空間を活かした**カヌー体験**や**環境学習**、安全講習等の活動や**流域一斉清掃「緑川の日」**が行われている。



川尻の船着場(熊本市)



熊本甲佐総合運動公園(甲佐町)



カヌー体験(宇土市)



流域一斉清掃(緑川の日)

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (1) 事業採択年・工事着手年

- ・緑川では、沿川地域の歴史・文化やまちづくりと調和し、さらに安全で快適な河川空間の整備を地域と協働で進めることにより、人と川とのふれあい、そして地域の活性化につながるような施策(かわまちづくり)を推進している。
- ・今回は、事業が継続している宇土走潟地区と甲佐地区の水辺整備について事業評価(再評価)を行う。



凡例	
	河川
	完了箇所
	継続箇所
	継続(変更)箇所

区分	箇所名	事業採択年	工事着手年	事業期間	備考
水辺整備	宇土走潟地区	R3年度	R5年度	R4年度～R12年度	継続箇所
	甲佐地区	H26年度 R6年度	H28年度 R8年度	H27年度～R16年度	継続(変更)箇所
緑川総合水系環境整備事業				H27年度～R16年度	

※高田地区(H21年度完了)、津志田地区(H17年度完了)、御船地区(H26年度完了)は完了評価済のため、今後の事業評価の対象外とする。  
 ※甲佐地区においては、令和6年度に計画の変更を行い、令和8年度に追加整備範囲の工事に着手する。

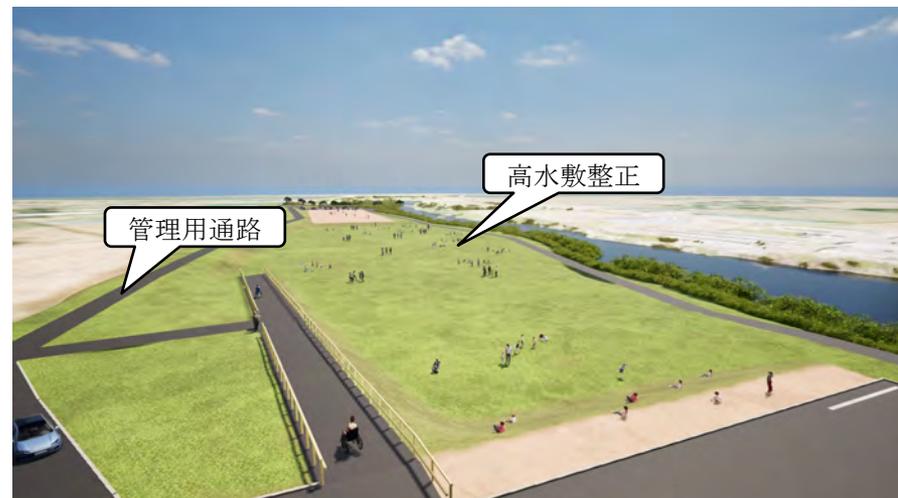


# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 2)事業の進捗状況(継続箇所:宇土走潟地区)/概要・目的

- ・宇土走潟地区において、**緑川旧河道部のポテンシャルを活かしながら、利用者の安心・安全の向上と、地域の活性化**を両立した水辺拠点が求められている。また、出水時における一時的な避難の場、多目的な利用の場が求められている。
- ・宇土市の宇土都市計画地域マスタープランと連携し、親水利用、行事等の**賑わいのある水辺拠点**として、親水護岸、管理用通路、高水敷整正等を整備する。

### 【整備イメージ】



### 【概要】

位置	緑川旧河道
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸、管理用通路、高水敷整正等
事業費	2.4億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和4年度～令和12年度

### 【工程表】

工種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
親水護岸		■	■	■					
管理用通路		■	■	■					
高水敷整正		■	■	■					
測量設計等	■	■	■	■					
モニタリング等					■	■	■	■	■

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (2) 事業の進捗状況(継続箇所:宇土走潟地区)/現状

- ・令和5年度に工事に着手し、現在は基盤整備が進行している。
- ・整備完了後の利活用に向け、協議会や実行委員会を開催しながら、河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上に向けた検討を地元住民、関係機関と連携し進めている。

### 整備前の状況



河岸に通路が無く、草木が繁茂しているため、安全に水辺を見通せず、通行できない。



高水敷には凹凸があり安全に利用できず、広いスペースを十分に活用できていない。



水際は高低差があり、アクセス路がないため、安全に水辺に近づけない。

### 整備イメージ



# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (3) 事業の進捗状況(継続箇所: 甲佐地区)/事業の必要性

- ・甲佐地区かわまちづくり(平成27年度登録)において整備した熊本甲佐総合運動公園は野球やサッカー、アクアスロン大会等のスポーツ利用により賑わっている。
- ・しかし、甲佐地区には、遊具が設置されている公園が殆どなく、熊本甲佐総合運動公園の周辺に幼児から小学生、家族連れが楽しめるような公園を整備してほしいという声が多く寄せられている。
- ・今回整備が予定されている場所は、水際に高低差があり安全な水際へのアクセスが困難であり、草木が繁茂しているため広場としての利用や散策ができない状況である。



### 【整備済み箇所】

#### ○整備前の状況



水際を含め高水敷に凹凸があり、河川内の利用ができない。

#### ○整備後の状況



熊本甲佐総合運動公園が整備され、スポーツ利用等で賑わっている。



アクアスロン(スイムとランを合わせた複合競技)大会

### 【継続(変更)箇所】



広場はコンクリート舗装がされているが、地面に凹凸があり、多目的な利用ができない



水際は雑草に覆われており高低差があるため、安全に水際にアクセスできない

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (3) 事業の進捗状況(継続箇所: 甲佐地区)/概要・目的

- ・幼児から小学生まで小さい子供が安全に遊ぶことができる多目的広場やせせらぎ水路、休憩所(木陰含む)の整備により、幅広い年齢層の憩いの場としての利用を活性化する。
- ・階段護岸等の整備によりカヌーやSUPの利用、アクアスロン大会の拠点としての利用が可能となり、活気のある河川空間を創出する。

### 【概要】

位置	緑川 23k800~24k200付近
区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸、管理用通路、高水敷整正等
事業費	12.5億円
整備完了年	令和11年度
事業期間	平成27年度~令和16年度

### 【工程表】

■ 当初計画による整備 ■ 計画変更による整備

工種	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
緩傾斜護岸				■																	
護岸工(階段)				■								■		■							
坂路工		■											■								
管理用通路		■		■									■								
高水敷整正		■	■	■								■	■	■							
測量設計等	■	■	■	■								■	■	■							
モニタリング等					■	■	■	■	■	■						■	■	■	■	■	■

### 【整備イメージ】



遊具を設置することで、幼児から小学生、家族連れが楽しめる場所となる。

親水階段の整備により、アクアスロン大会の会場や、カヌー等の新たな水上アクティビティの拠点となる。

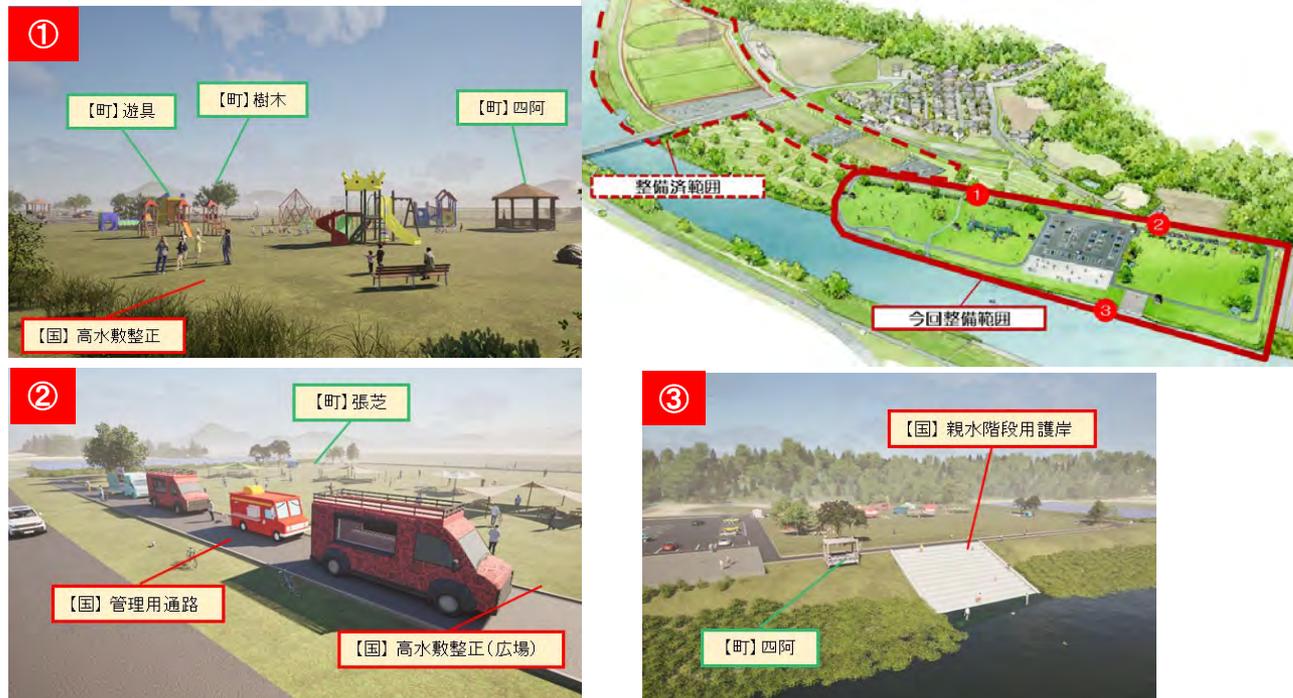
# 2. 事業の進捗の見込み

## (1) 事業費の変更内容( 継続(変更)箇所: 甲佐地区 )

### 甲佐地区かわまちづくり計画の変更登録 本工事費 2.3億円

- ・ 甲佐地区かわまちづくりは、令和6年8月に「かわまちづくり計画」が変更登録された。
- ・ 本計画は、憩い(子どもたちの遊び等)、食(地域、民間事業者と協働によるイベント等)による新たな交流空間を創出することを目的に、甲佐町のまちづくりと連携しながら、水辺空間整備と活用・維持管理に取り組むものである。

### 整備箇所・整備イメージ



かわまちづくり登録証 手交式(R6.9.9開催)  
※R6.9.11(水)熊本日日新聞に掲載

# 2. 事業の進捗の見込み

## (2) 事業の実施状況

### 【事業名】

- ・緑川総合水系環境整備事業

### 【計画(整備内容)】

- ・宇土走潟地区(親水護岸、管理用通路、高水敷整正、モニタリング調査等)
- ・甲佐地区(親水護岸、管理用通路、高水敷整正、坂路工、モニタリング調査等)

### 【総事業費】

- ・約14.9億円

### 【整備期間】

- ・平成27年度から令和16年度

### 【事業進捗率】

- ・約36.2%(事業費ベース)

### 【残事業費】

- ・約9.6億円

### 【事業の進捗状況】

- ・宇土走潟地区は、令和4年度から事業に着手し、現在は高水敷整正在進められている。
- ・甲佐地区は、平成27年度から事業に着手し、平成29年度に高水敷整正や管理用通路、平成30年度に護岸工や緩傾斜護岸の整備が完了し、野球やサッカー等のスポーツ利用で賑わっている。令和6年度に新たに変更登録され、周辺地域の憩いの拠点を目指し、地元自治体や地域住民等と連携して事業を進める予定としている。

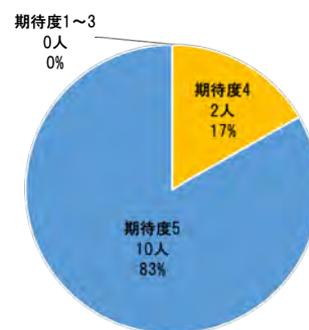
## 2. 事業の進捗の見込み

### (3) 今後の事業展開

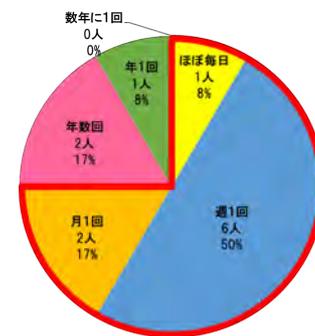
- ・宇土走潟地区では、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和5年度から工事に着手し、協議会や実行委員会、社会実験等にて議論を重ね、令和7年度に工事完了する予定である。令和7年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和12年度に完了する予定である。
- ・甲佐地区では、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和7年度から工事に着手し、協議会や実行委員会、社会実験等にて議論を重ね、令和11年度に工事完了する予定である。令和11年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和16年度に完了する予定である。

### (4) 今後の事業の進捗の見込み

- ・宇土走潟地区では、地元住民代表や学校関係者、熊本県、宇土市、国土交通省により構成された「宇土走潟地区かわまちづくり協議会」「宇土走潟地区かわまちづくり実行委員会」などの**住民との意見交換、連携により、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく。**



かわまちづくりへの期待度  
(1:期待度低⇔5:期待度高)



整備後、どのくらいの頻度で  
利用したいか

アンケート結果(n=12)

- ・甲佐地区では、平成26年7月より地域関係者(地元代表、学校関係、関係団体等)や地域自治体(上益城郡甲佐町)、河川管理者(国土交通省)が参加する「甲佐地区かわまちづくり協議会」「甲佐地区かわまちづくり実行委員会」により議論がなされ、平成30年度に整備が完了。令和5年度に議論を再開し、令和6年8月にかわまちづくり計画が変更登録された。今後も、**変更箇所の整備内容や利活用、維持管理等について引き続き議論していく。**
- ・このように、これからも地域の協力体制が確立されており、地元の期待も大きく、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

## 2. 事業の進捗の見込み (事業の投資効果)

### (1) 費用対効果分析(水系全体)

項目	前回評価時 (令和3年度)	今回評価時 (令和6年度)	変更理由
総事業費	約17.8億円 高田地区(H21年度完了):約4.4億円 津志田地区(H17年度完了):約1.4億円 御船地区(H26年度完了):約4.5億円 甲佐地区(R5年度完了予定):約5.1億円 宇土走潟地区(R12年度完了予定):約2.4億円	約14.9億円 甲佐地区(R16年度完了予定):約12.5億円 宇土走潟地区(R12年度完了予定):約2.4億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺整備事業の変更登録(甲佐地区)による事業費の追加、予定完了年の変更</li> <li>・完了評価済み整備事業の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更</li> <li>・集計世帯数の更新による便益の変更</li> </ul>
事業完了年	令和12年度	令和16年度	
B/C	5.9	5.9	
B(便益)	193.2億円	98.3億円	
C(費用)	32.5億円	16.7億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これに社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

※各事業費の四捨五入により、総事業費と各事業費の合計があわない箇所がある。

## 2. 事業の進捗の見込み (事業の投資効果)

### (2) 費用対効果分析(事業別)

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	14.9億円	—	98.3億円 ※社会的割引率 4%・1%の場合:213.7億円 4%・2%の場合:161.4億円	16.7億円 ※社会的割引率 4%・1%の場合:19.0億円 4%・2%の場合:18.0億円	5.9 ※社会的割引率 4%・1%の場合:11.2 4%・2%の場合:8.9
継続事業	14.9億円	—	98.3億円	16.7億円	5.9
水辺整備					
宇土走潟地区	2.4億円	護岸、管理用通路、 高水敷整正	75.5億円	2.4億円	30.9
甲佐地区	12.5億円	護岸、管理用通路、 高水敷整正、坂路	22.8億円	14.3億円	1.6
残事業	9.6億円		42.6億円	8.9億円	4.8

※数字は小数点第2位で四捨五入。そのため、積み上げによって合計値の小数点第1位に誤差が生じることがある。

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計数	支払意思額
宇土走潟地区	令和3年度	1,500	300	半径10km圏内	124,412(世帯)	298円(月/世帯)
甲佐地区	令和6年度	2,000	347	半径10km圏内	25,308(世帯)	443円(月/世帯)

## 2. 事業の進捗の見込み (事業の投資効果)

### 効果名：効果の概要

① CVM手法による便益の算出：約98.3億円

② 地域のにぎわいの創出：総合運動公園として地域内外からの活用  
水辺イベントの開催の場としての活用  
地域の行事等の文化交流、  
親子連れや子供たちの遊び場としての活用

P3、P4

③ 治水安全性の向上：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P11、P12、P14

④ 良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動

P3、P4、P8

⑤ 費用対効果分析：全体事業(B/C)：5.9、残事業(B/C)：4.8

# 3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

## (1) 代替案の可能性の検討

- ・宇土走潟地区の整備内容は、協議会や実行委員会において、計画段階から継続的に議論を重ねた上で、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ・甲佐地区の整備内容については、協議会や実行委員会において、計画段階から地域住民等と継続的に協議しながら、より具体的な整備内容を検討しているところである。
- ・このように、これからも河川管理面、河川利用面等を考慮した上での整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

## (2) コスト縮減の方策

- ・近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。
- ・宇土走潟地区においては、近隣の土砂の活用にてコスト縮減を行っている。
- ・甲佐地区においては、防災ステーション付近の土砂の活用および現地発生材の活用などでコスト縮減を行っている。

# 7. 対応方針(原案)

- ◆宇土市では、水辺空間の整備によるレクリエーション機能の付加に取り組むこととしており、宇土走潟地区かわまちづくりでは緑川旧河道のポテンシャルを活かしながら、**地域の安全と活性化を同時に実現し、宇土走潟地区の新たな魅力となる親水拠点の創出を目指している**。しかしながら、河岸には水辺までの安全なアクセス路がなく、また、高水敷には凹凸があり安全な利用が困難であった。このため、親水護岸、管理用通路、高水敷整正等を整備し、賑わいのある水辺拠点を創出する。
- ◆甲佐町では、熊本甲佐総合運動公園「緑川リバーサイドパーク」を、**多様な世代の交流の場として、活用と広域的利用を促進することとしている**。「緑川リバーサイドパーク」の供用開始後（令和元年）、**町内外から多くの利用者がスポーツを楽しんでいるものの、町内から特定多数の利用だけでなく、幼稚園から小学生、家族連れなどの利用空間を求める声が上がっている**。また、公園内への出店希望者がおり、今後、民間事業者による**河川空間のオープン化の具現化も求められている**。このため、甲佐地区（水辺整備）では、「緑川リバーサイドパーク」の隣接地に管理用通路、親水護岸、高水敷整正等の整備を行い、町内外の利用者が憩う多目的広場を創出する。
- ◆整備に対する地域の関心とニーズは高く、宇土走潟地区（水辺整備）では、「宇土走潟地区かわまちづくり協議会」「宇土走潟地区かわまちづくり実行委員会」を通して、整備や利活用・維持管理等について活発な議論や、現地確認、炊き出し体験など地域住民を主体とした活動が行われている。また、アンケート等の結果から整備に対する地元の期待が大きい。甲佐地区（水辺整備）では、「甲佐地区かわまちづくり協議会」及び「甲佐地区かわまちづくり検討部会」において、整備や利活用・維持管理等について活発な議論が行われている。このことから、**地域の協力体制が整っている**。
- ◆ 事業進捗率は、約36.2%（約5.4億円／約14.9億円）であり、令和16年度には事業完了予定である。
- ◆ 費用対効果（B／C）については、全体事業5.9、残事業4.8となっている。
- ◆ 以上より、**引き続き事業を継続**することとしたい。